

## 令和 7 年度 第 1 回広報広聴検討会議

日時	令和 7 年 12 月 3 日（水） 14 時 00 分～15 時 40 分
場所	役場 1 階 多目的ホール
出席者	委員 4 名 企画環境課参事、広報広聴係

### 会議内容

- ①広報広聴活動全般について（広報誌、広聴、ラジオ、SNS など）
- ②広報誌リニューアルについて

### 議事録

- 町長あいさつ
- 広報広聴活動全般について、広報広聴係より説明

#### 【意見内容】

- ・（委員）令和 5 年度から広報誌の発行部数を増やしたのはなぜか。  
→（事務局）特集などで掲載された人のほか、高校生の親などニセコ町外に住んでいる人から「広報誌が欲しい」という声もあり、在庫が無くなる状況があった。
- ・（委員）まちづくりトークやこんにちは町長室などの内容を広報誌に掲載したことはあるか。  
→（事務局）まちづくり懇談会での意見や町からの回答は、広報誌に掲載しているが、まちづくりトークなどは掲載していない。
- （委員）プライバシーの問題もあるかもしれないが、どのような話がされたか、問題がシェアできる。
- （委員）倶知安町の 11 月広報と一緒に配布されたチラシに、ゴミの分別されていない写真が大きくダメな例として掲載されていた。日本語と英語の両面で、具体例が示してあって分かりやすかった。
- （委員）広報誌はページが限られるので、チラシやそれ以外の媒体を使って発信するほうが広がりがある。個人情報以外は SNS での発信を強めていくほうが良い。紙もインク代も高くなっている。
- （委員）広報誌を PDF でホームページに掲載していることをもっと周知したほうが良い。紙は捨ててしまう。今後 PDF が主流になっていく中で、急に変えることは大変なので、電子化を進めているということ自体を広めたほうが良い。
- （委員）町のラインで通知が来て、そこから見るができる。
- （委員）インスタグラムのストーリーに投稿すると閲覧数が上がるのではないか。
- （委員）リールにリンクが貼れるようになった。

- （事務局）投稿で広報誌を発行していることをお知らせしているが、それを共有するほうがいいのか。投稿でないほうが良いか。
- （委員）投稿は良い。新しくニセコ町に来た人はフォローしたがるので、そこから情報を知って、広報誌があることを知らせることは良い。
- （事務局）オンラインで知ることができるが、強制接触できる場面が増えると良いと考えている。やり切れていないが、窓口に二次元コードを表示したものを設置したり、お手洗いのドアに貼るなど、多くの人が触れるところにあるといい。対応の余地はあると思っている。
- （委員）アナログからデジタルへの移行期間は、デジタル化を進めていること、そこに力を入れ始めているとお知らせしていく期間である。そこにはアナログも必要である。デジタルが当たり前になってからそういったことを進めていくと良いのではないか。
- （委員）インスタグラムもリンクが増えていたり、頑張りが伝わってくる。
- （委員）綺麗カードのデジタル移行もまずチラシで周知している。
- ・（委員）高齢者はなかなか使いこなせない。デジタルもアナログも2つ用意したほうが良い。
- （委員）スマートフォンに対して拒否感がある人もいる。過渡期でもあるので、さまざまな年代に併せて作っていかなければならない。
- （事務局）役場ではスマホ教室を実施していて、人気がある。そういった場面で町の情報の知り方などを周知していくこともできる。
- （委員）スマートフォンは災害時も有効である。手元で情報が入るものは必要で、そのために広報がデジタル化を進める努力も必要であるし、高齢者がいかにスマートフォンを使えるかは大事になってくる。
- ・（委員）広報誌の裏にインスタグラムの二次元コードあるといい。
- （事務局）カレンダーのところには載せている。
- ・（委員）インスタグラムがあることを知らなかった。どうやって知ったか。
- （委員）この検討会議にこれまで参加していて知った。
- （委員）知り合いのところに出てきた。ポスターを貼ってお知らせしていくといいと思った。
- （事務局）毎朝「おはようていざん」というのをやっていて、リアルの天気をお知らせしている。
- （委員）見ている。
- （委員）ラジオニセコでもPRされていない。
- （町長）ラジオニセコ、観光協会などそれぞれにインスタグラムを運用している。どれを見たら町の情報が分かるのかが整理されていないのは悩みである。
- ・（委員）町の他のアカウントとタイアップして動画を上げるなどはどうか。町としてはリールを作ったりするのは制限があるか。
- （事務局）制限はされていない。現状、今の投稿をやっていくのもパワーがいる。
- （委員）他の町では外部委託しているところもある。フォロワーを伸ばすならそういったやり方もある。
- ・（事務局）SNSをそれぞれが持っているし、サイコーニセコというオウンドメディアができた。このエリアの情報、魅力を発信している。

- （委員）お金を使うとさまざまなことができる。考えなければいけないのは、広報が何を狙っているかということ。人口増加したいのか、町をアピールしていききたいのか。その辺りをはっきりさせないとどうしていききたいかが分からない。
- （委員）インスタグラムでの情報発信のスタンスは変わらないか。
- （事務局）変わらない。ラジオニセコや教育委員会のアカウントもそれぞれ意図があって発信している。その辺りを見極めてすみ分けをしながら、行政の動きを捉えてもらうような情報発信を基本としてやっていきたい。
- ・（委員）SNSの発信にどのくらいの時間がさけるか。
- （事務局）今は協力隊員に投稿をお願いしている。時期によっては時間を割けないこともある。
- （委員）定期的に投稿していく必要がある。時間があるならば、おぼんです町長室のリールを作るなど、新しい試みに挑戦してほしい。同じような投稿ばかりを見ているとそれに慣れてしまっただけでなくなる。
- （町長）挑戦していこうということは自分自身も言っていることなので、挑戦していきたい。こういった会議の場を配信するなど、「今までこうだったから」ではなくやっていきたい。
- （委員）一つの投稿がヒットすると、フォローしてくれることもある。新しい投稿を試してみるといいのではないかな。
- （町長）みなさんからこうしていくと良いと言ってもらえると嬉しい。
- （事務局）挑戦してみたいと思う。
- ・（委員）広報誌やラジオ、懇談会などいろいろな事業がある中で、特に変えていかなければいけないことや課題に感じていることはあるか。
- （事務局）広報誌では、特集記事を掲載できていない月もあり、特集記事の有無によって、広報誌の読む楽しみなどが変わってきてしまうと思っている。また、ホームページは、せつかく情報を取りに来てくれているのに、情報を探せないような状況になってしまっているのが改善が必要であると感じている。
- （委員）特集が無いのは何か理由があるか。
- （事務局）言い訳になってしまうが、他の業務で時間が無く、記事作成まで手が回らないので掲載できていない。
- （委員）時間が無いことも大事。いかに整理していくか、深い取材だけではなく、半分くらいだとやりやすいのではないかな。ゴミの話は以前事業者さんから聞いたことがあって、自分自身が全然分別ができていないと知ることができた。人からもらったお役立ち情報などを小さい特集として掲載できるといいのではないかな。忙しい時に重い記事は気合がいる。楽しく仕事したほうがいい広報誌になる。
- （委員）繁忙期は、外部への委託ではないが、誰かに記事を作ってもらいたいのではないかな。それぞれに見方も違うし、興味があることも違う。歴史、お米、山などコアな部分の記事を作ってもらいたい。本を作っているプロもいるので、手伝ってもらいたいと思う。
- （委員）そういった記事を読むと広報担当者もインスピレーションも得られるし、学びもある。
- （町長）ラジオニセコではないが、「見るだけじゃない、書く広報」というのは、いいと思う。プロモーションを観光協会だけが担うのは難しいというように、町民が広報

を担うのも良い。町民が知りたいことが話を聞いてみたい人に聞きに行くなど、参加してもらえるといい。

→（委員）有島記念館に書いてもらうのもいいのではないかな。

→（事務局）なぜやるか、という問いが立つことがある。ラインや広報誌などを活用してアンケートを取って、町民が何を求めているか、どう感じているか、特集は毎月入れないといけないか、重点的で良いかも含めて意見を求めてもよいと思っている。楽しみにしているというような意見があれば、力を入れて書いているというところもあるので、ほかの SNS と連携して発信していきたいし、応用することで人員の問題にも対応できる。外の力を借りながらも内部でも工夫して、両輪でやっていけたらいい。

・（委員）ぼやきや失敗など、ちょっとしたオチがあるといい。

→（事務局）リニューアルでは、そういった小ネタなどもページ端に入りたいという話は出ている。

## ●広報誌リニューアルについて、広報広聴係より説明

### 【意見内容】

・（委員）広告枠は昔もあったと思う。

・（委員）今の広報誌は文字量が多い。他の市町村の広報誌は割と文字がスカスカだったりする。情報の伝え方はさまざまあって、今の広報誌は文字＝情報と思っている人が作った広報誌といったイメージ。よくパラパラと見ている人がいるが、それは自分に関係のあるところしか読まないから、今は優先順位が付けにくい。一生懸命書いているのに埋もれていてもったいない。イラストを入れて、パッと見て的確に伝えられるのに、読んでもらうところまでいけないのはもったいない。アイキャッチは大事である。レイアウトが固いので、雑誌を参考にするといい。紙を安くしてカラーにするのも一つの方法。頑張りが埋もれている。メリハリを付けないと、情報が平たんになっている。

→（委員）文字数は多い。イラストが増えると分かりやすい。一生懸命作っているのは伝わる。

→（委員）アイキャッチはパッと見てなんの情報かが分かるので、それをやるだけでも紙面が変わってくる。

→（委員）くらしの情報にアイコン入れるといいのではないかな。

・（委員）文字数制限はしていないのか。

→（事務局）していない。インタビューなどは、相手の熱い思いを掲載しようと思って文字量が特になくなってしまった。

→（委員）相手に文字量をはじめに伝えておくと進めやすいと思う。

→（委員）深く知りたい人はデジタルに、というようにしたほうが良い。

→（委員）せっかくリニューアルするならば、課題を持ってやると見やすくなるし、相手にも届きやすい。

・（委員）一生懸命書いてもどれだけ読んでいるか。

→（委員）埋もれてしまうのはもったいない。

→（委員）「道路の雪出しをやめましょう」というのも掲載されているが、読んで雪出ししない人がどれだけいるのか。若者に届けるならば、インスタグラムで流すような方

法もある。これだけの文字数で掲載依頼があると大変だ。

- （事務局）依頼する際に文字制限するなど、ルールを決めることはできる。
- （委員）文字制限することで、担当者に情報の強弱を考えてもらったり、大切なことを認識してもらう機会にもなる。
- ・（委員）文字数は少ないほうがいい。少なくすることでずいぶん変わる。ここまで良い紙でなくても良い。
- （委員）紙を変える分、カラーにする方法もある。
- （委員）そのほうが見やすい。
- ・（委員）どういった分担で作っているか。
- （事務局）くらしの情報でいうと、原課に原稿を依頼して、インデザインに広報ではめ込んで、デザイン・印刷業者へ送付している。
- ・（委員）文字を少なくして、アイキャッチを入れると変わる。
- （事務局）文字を少なくするには、ライターが必要になってくる。どういった言葉を組み合わせれば文章を短くできるか考える必要がある。
- （委員）チャット GPT も利用できる。
- （委員）文字で書いていたものに写真を入れるだけでも文字が削れる。伝わる量が変わる。非言語コミュニケーションを念頭に置くと良い。
- （委員）AI を利用するのも一つの方法であるが、これまで広報を編集してきた人たちからの意見などがないと成長していかない。すべて書く必要はなく、要約することが求められる。要約を学ぶ機会などの研修会をやるなど、経験のある人に相談できると良い。
- （事務局）研修するのもあり。自分自身経験があるので一緒にやるつもりだが、育てることも考えなければいけない。
- （委員）こうします、というようなディレクションが必要である。
- ・（委員）編集長がいたほうがクオリティが上がる。イラストも大事だが、見出しも大事で、そこで読んでもらえるかが変わってくる。長いと見てももらえない。
- （委員）見出しは、その見出しではなぜダメか、というような経験がないと難しい。
- （委員）編集長は試しにやってみるといい。外部のノウハウを教えてもらうことで成長につながる。
- （委員）キャッチーな見出しは難しい。
- （委員）できる・できないは別として、こういった方法があるといったことを知るだけでもいい。
- （委員）プロである必要はなく、見出しがフックになるという意識を持つ必要がある。
- （委員）広報誌自体は面白くなっている。
- （委員）時代にあった広報のやり方がある。変わっていくものであるから、今後どういったあり方で進めたら良いかを考えていけたらいいのではないかな。
- （事務局）いただいた意見を参考に検討していく。

## ●次回の検討会議

2月または3月開催で調整する。